

「地域と心をつなぐ子ども会」

鹿屋市立吾平小学校 校長 仲村 智博

私は小学校3年まで西原小校区の団地に住んでいました。その当時は近所に子供がたくさんおり、季節の行事をはじめ、いろいろな楽しい行事がありました。十五夜の相撲大会では、同じ学年同士の組み合わせでしたが、一度も勝てなかったのが記憶に残っています。大勢の大人や子供が参加し、とてもにぎやかだったのを覚えています。

小学校5・6年の時は、父親の転勤のため北海道の松前町で過ごしました。北国であること以外にも鹿屋とは違うことが多く、戸惑うことがたくさんありました。そのような中でもたくさんの思い出ができました。まず思い出すのが、正月明けに開催された百人一首のカルタ取り大会。大会の中身はほとんど覚えていませんが、雪が舞う中、温かく美味しい雑煮を食べさせてもらいました。みんなとワイワイしながら食べる雑煮は、元旦に家族で揃った雑煮とは違った美味しさがありました。他にも季節ごとに様々なイベントがありました。

親になり保護者として親子で子ども会に参加するようになりました。町内会の夏祭りに向けて集まった子供たちと一緒に神輿作りをしました。お祭り当日、自分たちで作った神輿を担いだ子供たちの笑顔と活気ある姿に感動したことを覚えています。

教諭として、子ども会主催の夏休みの勉強会に出向いたり行事に参加したりすることもありました。地域対抗の親子ドッジボール大会での審判や歩こう会、妙円寺参りや山登りに参加してきました。学校とは違う一面を見せる子供の姿を知り、日頃の教育活動に生かすことができました。管理職になってからも、

鬼火焚きやスポーツフェスティバルなどに参加して地域の皆様や保護者の皆様、子供たちとふれ合う機会を持つことができました。

子ども会の目的は、地域を基盤とする異年齢の集団で遊びを通じて社会性を育み、心身の成長を促進することです。他にも、子ども会は地域に根付いた活動であるため、近隣住民や高齢者の方と触れ合う機会があり、地域で子供たちの成長を見守ってもらうことができます。

吾平小校区では、今年度、町内会や地域の方々、保護者の皆様の協力を得て、これまでは町内会ごとにあった子ども会が一つとなり、吾平小学校の子供が全員参加する「吾平小学校校区子ども会」となりました。一つにまとまったことや人数が増えたことにより、いろいろな活動が期待できます。これまで子ども会の人数が減ったことにより伝統技能などの活動ができなくなったところもあったようですが、一つにまとまったことにより今後は復活に向けた話し合いが持たれるのではないかと思います。

子供たちをより良い成長につなげていくためには、子ども会の活動は欠かせないものだと思います。子供たちが未来へ向かって良い方向にいくように、学校教育と協力しながら進めていきましょう。

